

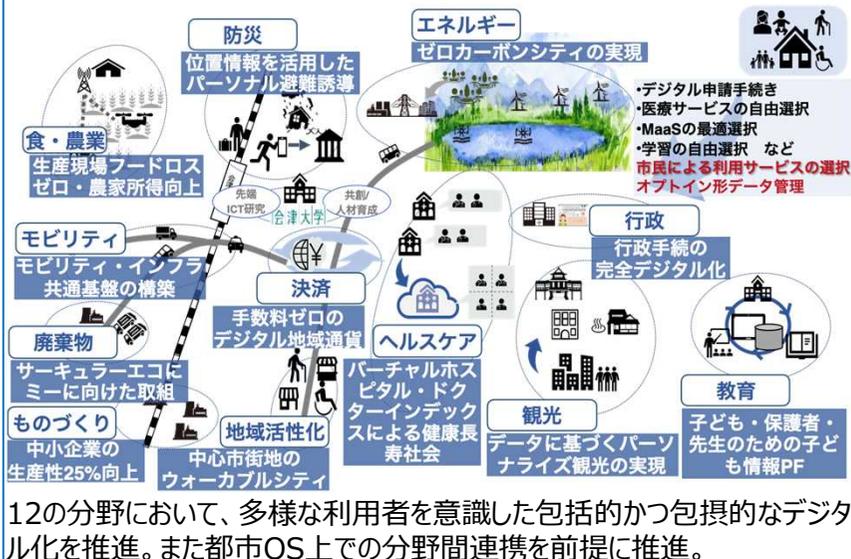
**デジタル技術を活用した市民生活の利便性向上及びICT産業集積を同時に推進**  
『スマートシティ会津若松』の発展・深化を図るため、本市の伝統・歴史・文化・景観などを生かしながらデジタルを活用することで、利便性・持続性等を向上させるブラウンフィールド型のスマートシティを推進。

## 目標 (KPI)

目標	KGI/KPI	2030年目標値
市民参加率の向上	地域ID登録者数	50,000ID
地域の活性化	公示地価の伸び率	地方平均比+7%
持続性の確保	経常収支比率	90%未満

## 実行計画

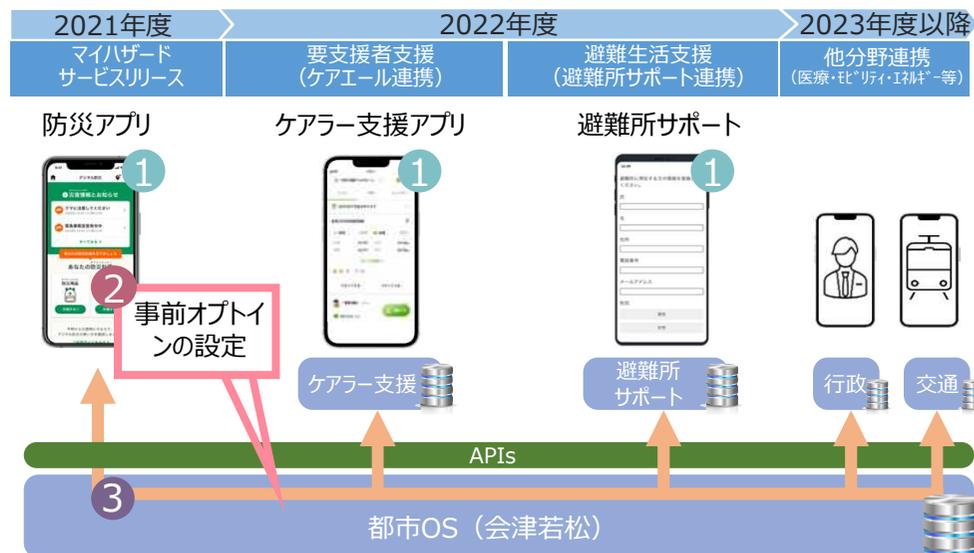
### スマートシティ構想の全体概要



## 実証内容

### 命を守るデジタル防災 (マイハザード) 事業

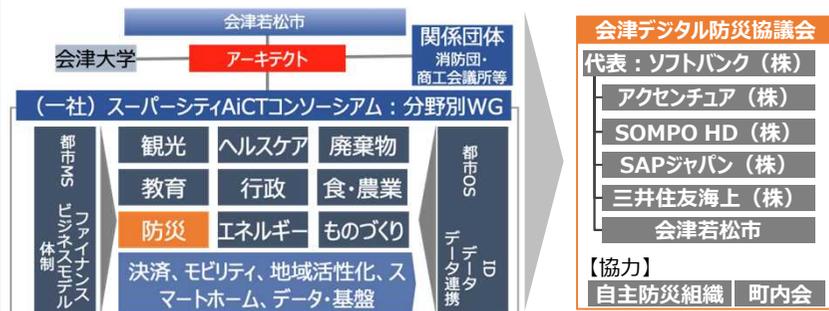
オプトインに基づいて取得した市民の属性情報 (住所や家族情報) や位置情報を活用したパーソナライズされた防災サービス (マイザード) を都市OS上で提供。さらに、都市OS上で他サービス連携を行うことで、防災サービスの高度化を推進。



- 1 パーソナライズ型防災サービス: マイハザード+サービス連携**  
市民の属性情報や位置情報を活用し、パーソナライズ型の防災サービスを提供することに加え、他サービスと連携を行うことで高度化した防災サービスを提供
- 2 情報取得範囲&オプトイン**  
災害時のデータの取り扱い、データ連携範囲を都市OSで明示的にオプトインとすることで、行政、民間企業等も情報利活用に戸惑うことなく適切な避難者支援活用が可能
- 3 都市OSを通じたサービス間データ連携**  
オプトインにより、行政・モビリティなどのさまざまな分野横断型のデータ連携が可能に

## 体制

会津若松市におけるスマートシティ実行計画全体の推進体制は以下の通り。本事業は、防災WG関連主体で構成した会津デジタル防災協議会で実施。



## 実証概要

### ■実施概要

オプトインに基づいて取得した市民の属性情報(住所や家族情報)や位置情報を活用することで、情報提供に留まらない避難誘導やリアルタイムな安否確認サービスなどのパーソナライズされた防災サービス(マイハザード)を都市OS上で提供。

### ■成果概要

防災サービス(マイハザード)としてサービス受容性が高かったこともあり、オプトインによる情報利用はほとんどの参加者が理解を示した結果(抵抗がないという結果)。一方で、抵抗がある参加者も存在したため、より利用者目線に立った丁寧なメリットの説明、オプトイン手法の検討が必要。

### 都市OSとマイハザード機能の連携におけるポイント

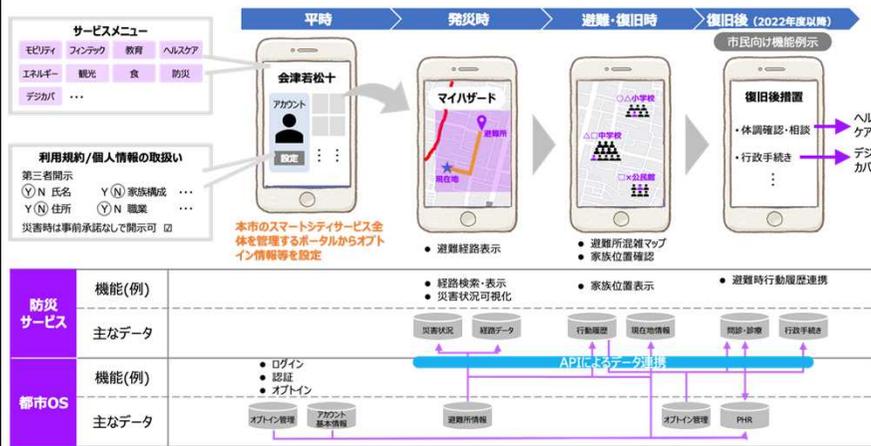


### マイハザードサービスイメージ (市民側)



## 実証実験の内容

- 全国でも前例がほとんどないスマートシティリファレンスアーキテクチャ標準仕様に基づく都市OS上にスマートシティサービスとしてマイハザードサービスを構築し、都市OSとサービス間におけるID/データ連携を実現
- 導入技術として、都市OSとマイハザードが担うべき役割に応じて、相互に機能・データ連携しながらマイハザードサービスを利用者に提供
- 都市OSの標準仕様に準拠し、ID認証/認可はOpenIDConnect、データ連携はRestful API/Jsonを利用



## 実証実験で得られた成果・知見

### サービス観点

個人情報取扱・利用目的理解

- サービス利用意向、サービスへの情報利用理解: 100%
- 個人情報提供に不安: 約20%

サービス利用意向はあるが一部個人情報提供に不安を感じていることから、安心・納得できる個人情報取扱の説明が必要

心理的不安が少ないサービス主体

- 不安に感じない情報管理主体: 自治体 > 国/県 > 企業

サービス運用主体が行政であること、また個人情報などのように活用・管理されているか納得できる説明が必要

ユーザーの求めるオプトイン

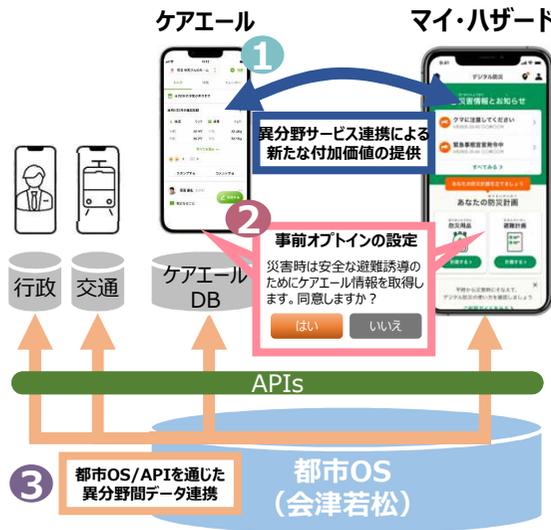
- オプトインタイミング:  
初回のみ 約40%、新しい情報提供時 約33%、都度 約17%

オプトイン取得回数を利用者が個別設定できるなど、個人の手間と安心感の尺度に沿った柔軟なオプトイン設計が必要



実証概要	災害時において弱者となりうる要支援・要介護者等に関する避難状況・服薬情報・体調等に関する情報を、災害時支援に必要な十分な範囲で情報共有することが必要であるが、 <b>平時と有事の情報提供範囲・種類等の差に関する知見は存在していない</b> 。そこで、R3事業にて実証を行った位置情報を活用した防災アプリ「マイ・ハザード」に、介護・ケアラー向けコミュニケーションサービスである「ケアエール」を連携し、 <b>サービス及びシステムの双方の観点で実証を通じた検証</b> を行い、防災及び介護DXを推進する	
検証仮説	サービス観点	災害時という有事におけるヘルスケア関連情報を誰に・どこまで共有することが適切かを実証／ <b>平時と有事との情報共有範囲の違いを検証</b>
	システム観点	他分野サービス（防災：マイハザードとヘルスケア：ケアエール）間にて、 <b>都市OSを通じた分野横断型データ連携</b> が可能かどうかについて検証
検証方法	サービス観点	<b>要介護者やご家族・ケアラーに災害時情報連携機能を実際に提供し</b> 、情報共有範囲・種類等に対する意見を伺うことで検証
	システム観点	<b>他分野サービス同士を接続可能なAPIやデータ構造などを開発・整理</b> することで、具体的な都市OSを通じた連携が可能かどうかを検証
先進性	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市OSを通じた他分野同士のデータ連携により具体的な市民向けサービスが提供される<b>日本初の事例</b>を構築することが可能</li> <li>同一サービス内で<b>平時と有事での情報提供に関する設定を変更可能な、きめ細やかなオプトインニーズに対応する仕組み</b>を構築</li> </ul>	
汎用性/発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市OS上サービスとしてマイハザード及びケアエールを構築すると同時に、都市OSを活用した連携モデルを開発することで<b>容易な横展開が可能</b>となる（汎用性）</li> <li>災害発生時にデータ連携する際のAPI・データ構造等のインターフェース開発により、行政・交通などの<b>他分野でのデータ連携も可能</b>となる（発展性）</li> </ul>	

## 都市OSを通じた分野横断型データ連携におけるポイント



- 災害時における要支援者・要介護者の避難サポート：マイハザード × ケアエール**  
マイハザード × ケアエール連携することで、位置情報や安否情報のみならず、服薬情報・体調情報等も含めてケアラーや行政等の支援者と共有し、**災害時に弱者となる要支援者・介護者等の円滑かつ迅速な避難状況の把握及び避難所生活のサポートを実施**
- 平時と有事の事前オプトインケースの使い分け**  
平時のみならず有事・災害時におけるデータ取り扱いについて、要支援・介護者等に関する避難状況・服薬情報・体調等に関する情報の連携範囲を都市OSで明示的にオプトインすることで、行政や病院等も災害時の情報利活用で戸惑うことなく適切な減災・救助活動が可能に
- 都市OSを通じた異分野間データ連携**  
サービス間のオプトイン情報利用することで、防災・ヘルスケア間はもちろんのこと、行政・モビリティなどのさまざま分野横断型のデータ連携が可能に

## マイ・ハザード×ケアエール連携イメージ



要支援者・介護者情報を利用した避難サポートサービス

POINT@避難時  
要支援者・介護者の安否・避難状況がオプトインに基づき支援者等にて確認可能

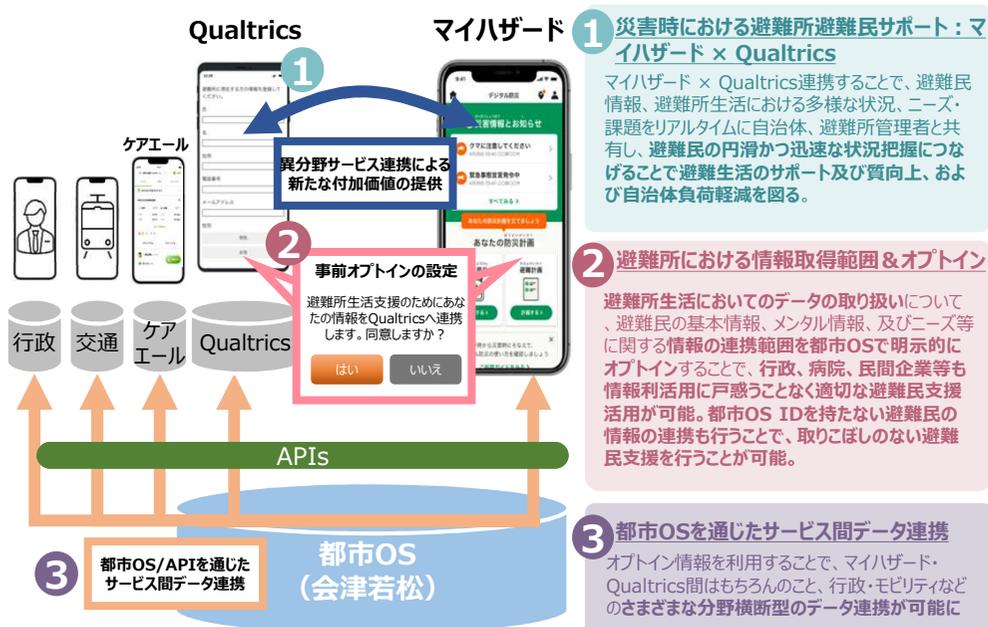
POINT@避難生活時  
要支援者・介護者の避難場所・服薬・体調情報等がオプトインに基づき、行政・病院等で確認可能

=自力で避難できない人

# 令和4年度 実施内容②（本公募における実施内容）

<p>実証概要</p>	<p>災害時における避難所生活において、その質を高めることが日常復帰時にも重要な要素となるが、<b>避難民の多様な状況、ニーズ・課題をリアルタイムに把握し、適切な避難民支援につなげる可視化範囲についての知見は存在しておらず、さらにその情報取得範囲、分析範囲、共有範囲や種類等についての知見も存在していない。</b>そこで、R3事業にて実証を行った位置情報を活用した防災アプリ「マイハザード」に、避難所管理ソリューションである「Qualtrics」を連携し、さらに要支援者を含めた避難民の体調や服薬情報とも連携し、<b>サービス及びシステムの双方の観点で実証を通じた検証を行い、防災DXを推進する。</b></p>
<p>先進性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市OSを通じた他分野同士のデータ連携のみならず、市民のデータ分析結果を元にサービス提供がされる<b>数少ない事例</b>を構築することが可能</li> <li>同一サービス内で<b>平時と有事での情報提供に関する設定を変更可能な、きめ細やかなオプションニーズに対応する仕組み</b>を構築</li> </ul>
<p>汎用性/発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市OS上サービスとしてマイハザード及びQualtricsを構築すると同時に、都市OSを活用した連携モデルを開発することで<b>容易な横展開</b>が可能となる（汎用性）</li> <li>災害発生時にデータ連携する際のAPI・データ構造等のインターフェース開発により、行政・交通などの<b>他分野でのデータ連携</b>も可能となる（発展性）</li> </ul>

## 都市OSを通じた分野横断型データ連携におけるポイント



## マイハザード×Qualtrics連携イメージ

